

R8 沼津市立大岡小学校いじめ防止基本方針

R8. 4月追記

【いじめ未然防止のための日常的な取り組み】

1 魅力のある学校・学級・授業作り

- ・学習の場面での対話を通して、他者の考えのよさを知る。
- ・対イとのよりよい関わり方を学ぶ。
- ・読書活動の推進。

2 豊かな心が育つ取り組み

- ・ATM（明るく・楽しく・前向きに）活動を進め、自分も友達も大切にすること。
- ・ありがとうがあふれる学校作り。（感謝集会）
- ・児童会活動や学校行事など特別活動における共感的な人間関係作りや自発性の育成。

3 全ての教育活動を通じた指導

- ・「自己判断能力」を高める生徒指導。
- ・自ら進んで考え、勇気を出して行動する子どもの育成。
- ・インターネット等の利用実態を把握した上での情報モラル教育の推進。

「いじめ・不登校対策委員会」の設置と学校としての取り組み

いじめを起こさせないための日常的取り組み いじめを早期に発見のための日常的取り組み

いじめの訴え、いじめに関する情報、いじめと思われる状況の察知

- 日常において、児童の兆候を把握する。（担任・全職員）
- 養護教諭やスクールカウンセラーなどの専門性の活用。

関係児童からの事実確認

- ◎複数の教員で対応し、個別に話を聞く。◎共感的に聞き、事実を確実に確かむ。

「いじめ・不登校対策委員会」において、対応方針の決定

- いじめた子、いじめられた子に対する具体的な対応や指導の手順等を確認する。
- 学級担任一人に任せるのではなく、役割分担を明確にする。
- 決定した対応方針を全職員間で共通理解する。

対策委員会メンバー 校長・教頭・生徒指導主任・保健主事、担任・SC等

他児童への指導

- 新たないじめを防止するための指導を行う。
- 傍観者や取り巻きもいじめを助長していることを理解させる。

関係機関との連携

- 市教育委員会、警察、少年サポートセンター等へ、連携・協力を図る。（暴力等の犯罪行為）

【いじめ早期発見のための日常的な取り組み】

1 共感的な人間関係の形成

- ・子どもの個性を尊重し、相手の立場に立った人間味あふれる温かい指導の推進。
- ・日々の中で子ども一人一人との触れ合いを大切にすること。

2 校内連携体制の充実

- ・学級（教科）担任や養護教諭は、小さなサインを見逃さず、きめ細やかな情報交換を日常的に行う。
- ・児童がスクールカウンセラーと接する機会を設け、カウンセラーとの協力体制を構築すること。
- ・学校内全職員で情報を共有すること。

3 アンケート調査の実施や保護者との連携

- ・年3回のいじめアンケートや教育相談等を実施し、実態把握し日々の指導に生かす。
- ・保護者と丁寧に連絡を取り合う中で、いじめにつながる事案を見抜き早期に対応すること。

教科指導での取り組み

<教科>

互いに認め合う雰囲気大切に授業の進め方をする。

<道徳>

資料と日常生活の場面を結びつけ、子供たちが共感し、自ら判断して行動できるようにする。

<学級経営>

「人間関係づくりプログラム」を実践し、温かな人間関係づくりに務める。

いじめられた子、保護者への支援

- いじめられた子、保護者からの訴えを誠意をもって聞く。
- 解決に向けて保護者と共に支援する体制をつくる。
- カウンセリング等の支援を行う。
- 教員は、保護者にいじめの状況を報告し、家庭と連携して解決を図る。

いじめた子、保護者への指導・対応

- 丁寧な事実確認を行い、いじめは許されないということをおぼろげに自覚させ、今後の行動を一緒になって考える。
- 教員は、保護者にいじめの状況を報告し、家庭と連携して解決を図る。

指導継続・指導の見直し

地域の方々

- スクールガード等による、登下校時の声かけと見守り。

いじめの解消

学校運営協議会

- 学校・家庭・地域の取り組みを全体にとらえた助言を求めると。

兆候察知のための取り組み

<学校>

- ・授業中、朝・帰りの会の様子を教師は細心の注意を払って見る。
- ・欠席した児童には、電話連絡または家庭訪問を行い、状況を把握すること。
- ・学級懇談会で話題にする。

<家庭>

- ・家族団らんの時間に、学校での出来事を話題にする。